

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 019

(2019/20 年度 USDA 米国農務省 2 月 11 日発表)

[ハイライト] ①世界の穀物需給関係は先月の米中「第一段階」合意を受け一時的に大豆シカゴ相場が\$9 台まで上昇したが、その後明確な実需増加気配がないことと BRA 大豆の歴史的豊作 (125 百万ト) が確定的なこと等から沈静化している。②また中国では先月以降新型コロナウイルスの拡散による穀物関連の物流/加工停滞懸念もあり US 産大豆輸入拡大期待の⊖要因になっている。③このような状況を受け米中「第一段階」合意の 2021 年農産物輸入 400 億ドル (2017 年比倍増) の実現は冒頭から危うい気配が漂ってきている。④一方、BRA 大豆収穫進度率は 2 月初め主産地のマトグロッソ州で約 40% 全国ベース 10% 強とされ全体的には前年 (20%) より遅れているが輸出港に向かう船舶数は file 済船舶も含め 95 隻/580 万ト相当と報告され前年を上回るペースである。⑤別表に示した通り 2019/20 年度穀物生産は BRA にとってコーン生産が 1 億ト超え、大豆も 125 百万トと史上最高の豊作となり歴史的な年になった。また大豆輸出は 77 百万トと世界貿易量 (152 百万ト) の 50% を超え US と並ぶ穀物生産/輸出大国の地位を不動のものとした。⑥あと今月は、BRA とは対照的に世界的な穀物消費/輸入大国になった中国について生産動向/政策も含め数回に分けて特集します。

1、世界穀物需給の概要 (大豆除く)

- ① 生産量: 2,663 百万ト (前年比 1.4% 増、前月比変わらず)
- ② 消費量: 2,671 百万ト (前年比 1.1% 増、前月比変わらず)
- ③ 貿易量: 429 百万ト (前年比 ▲0.2%、前月比 0.3% 増)

2、とうもろこし

- ① 生産量: 1,112 百万ト (前年比 ▲1.0%、前月比 0.1% 増)
- ② 消費量: 1,135 百万ト (前年比 ▲0.7%、前月比 0.2% 増)
- ③ 貿易量: 166 百万ト (前年比 ▲8.7%、前月比 0.1% 増)
- ④ 概況: 基本的な需給関係に大きな変動はないが BRA 生産量が 1 億ト超え 95 年 (32 百万ト) 比 3 倍増、15 年 (67 百万ト) 比 35 百万トの大幅増。また、輸出も 36 百万トと 15 年 (15 百万ト) 比 21 百万トと急増した。価格は \$3.84/Bu (前年 \$3.78/Bu、前月 \$3.87/Bu) と前月比¢3 下落した。

3、小麦

- ① 生産量: 764 百万ト (前年比 4.4% 増、前月比 ▲0.1%)
- ② 消費量: 754 百万ト (前年比 2.3% 増、前月比変わらず)
- ③ 貿易量: 183 百万ト (前年比 5.4% 増、前月比 1.0% 増)
- ④ 概況: 世界小麦生産数量は RUS/UKR 等の増産を受け 7 億 6 千万トを超え過去最高の予測。消費量/貿易量も世界的な麦需要拡大で同様に最高水準。しかし AUS は異常乾燥/森林火災の為に生産/輸出ともピーク時から半減。価格は \$5.59/Bu (前年 \$5.24/Bu、前月 \$5.55/Bu) と前月比¢4 上昇した。

4、大豆

- ① 生産量: 339 百万ト (前年比 ▲5.4%、前月比 0.5% 増)
- ② 消費量: 351 百万ト (前年比 2.2% 増、前月比 0.3% 増)
- ③ 貿易量: 152 百万ト (前年比 2.2% 増、前月比 1.6% 増)
- ④ 概況: 中国の輸入量予測が 88 百万トと前月比 3 百万ト増加し US/BRA 輸出が各 1 百万ト増とそれをカバーする形となったが、これを裏付ける様に中国税関統計では 19 年暦年の中国輸入量は 8,860 万ト (BRA 5,760、US 1,700、ARG 880) となった。これは中国の輸入油脂価格高騰等の要因と見られるが、今後新型コロナウイルスの影響が注目される。価格は前月の米中合意による輸入増の期待感が薄れ下記の通り \$9 を割り大幅下落。価格は \$8.82/Bu (前年 \$9.18/Bu、前月 \$9.31/Bu) と前月比¢49 下落した。

世界の穀物・大豆等の需給

2020年2月11日
米国税務省発表：単位100万トン

主要穀物世界の需給						
	生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2017/18	2,619	3,417	415	2,600	817
	2018/19	2,626	3,444	430	2,643	801
	2019/20	2,663	3,463	428	2,670	793
	2月	2,663	3,464	429	2,671	793
小麦	2017/18	763	1,026	182	742	284
	2018/19	731	1,015	174	737	278
	2019/20	764	1,042	181	754	288
	2月	764	1,042	183	754	288
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	2017/18	1,361	1,747	185	1,376	371
	2018/19	1,396	1,766	213	1,419	347
	2019/20	1,402	1,749	201	1,421	328
	2月	1,403	1,750	201	1,424	327
大豆	2017/18	342	0	153	0	0
	2018/19	359	0	148	0	0
	2019/20	338	0	149	0	0
	2月	339	0	152	0	0

世界のとうもろこし需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	1月	320.39	1,110.84	167.42	1,133.41	165.64	297.81
	2月	320.47	1,111.59	167.99	1,135.22	165.77	296.84
アメリカ	1月	56.41	347.78	1.27	312.31	45.09	48.07
	2月	56.41	347.78	1.27	313.58	43.82	48.07
アルゼンチン	1月	3.61	50.00	0.01	15.00	33.50	5.12
	2月	3.61	50.00	0.01	15.00	33.50	5.12
ブラジル	1月	4.58	101.00	1.00	66.00	36.00	4.58
	2月	4.58	101.00	1.20	66.50	36.00	4.28
EU	1月	7.63	65.00	21.00	82.50	2.40	8.73
	2月	7.84	65.00	21.00	82.50	2.80	8.54
日本	1月	1.44	0.00	16.00	16.10	0.00	1.34
	2月	1.44	0.00	16.00	16.10	0.00	1.34
中国	1月	210.32	260.77	7.00	279.00	0.02	199.07
	2月	210.32	260.77	7.00	279.00	0.02	199.07
ウクライナ、 ロシア	1月	1.32	50.00	0.06	13.85	36.20	1.33
	2月	1.32	50.30	0.06	13.75	36.70	1.23

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麥、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

世界の大豆需給							
	期首在庫		生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	1月	110.28	337.70	147.95	350.11	149.15	96.67
	2月	111.22	339.40	150.80	351.06	151.50	98.86
アメリカ	1月	24.74	96.84	0.41	60.77	48.31	12.92
	2月	24.74	96.84	0.41	60.77	49.67	11.55
アルゼンチン	1月	28.89	53.00	3.90	51.70	8.20	25.89
	2月	28.89	53.00	3.90	51.70	8.20	25.89
ブラジル	1月	30.26	123.00	0.15	46.24	76.00	31.17
	2月	30.42	125.00	0.15	46.40	77.00	32.17
中国	1月	19.46	18.10	85.00	102.70	0.13	19.73
	2月	19.46	18.10	88.00	103.70	0.13	21.73
EU	1月	1.08	2.60	15.20	17.56	0.25	1.07
	2月	1.23	2.60	15.20	17.61	0.25	1.17

世界の小麦需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	1月	278.06	764.39	178.19	754.37	181.07	288.08
	2月	278.27	763.95	180.09	754.19	182.82	288.03
アメリカ	1月	29.39	52.26	2.86	31.71	26.54	26.26
	2月	29.39	52.26	2.86	31.71	27.22	25.58
アルゼンチン	1月	1.74	19.00	0.01	6.05	13.00	1.70
	2月	1.74	19.00	0.01	6.15	13.00	1.60
オーストラリア	1月	4.96	15.60	0.55	8.70	8.20	4.21
	2月	4.96	15.60	0.55	8.70	8.20	4.21
カナダ	1月	5.92	32.35	0.45	9.35	24.00	5.37
	2月	6.04	32.35	0.45	9.70	23.50	5.64
EU	1月	10.00	154.00	5.30	127.50	31.00	10.80
	2月	10.00	154.00	5.30	127.00	32.00	10.30
中国	1月	139.77	133.59	3.20	128.00	1.10	147.46
	2月	139.77	133.59	4.00	128.00	1.10	148.26
インド	1月	16.99	102.19	0.02	98.00	0.50	20.70
	2月	16.99	102.19	0.02	98.00	0.50	20.70
ロシア	1月	7.82	73.50	0.48	39.50	34.00	8.29
	2月	7.82	73.50	0.48	39.50	34.00	8.29
ウクライナ	1月	1.59	29.00	0.08	8.90	20.50	1.26
	2月	1.59	29.00	0.08	8.90	20.50	1.26

世界の穀物生産/消費/輸入大国＝中国とその食糧政策(1)

世界鉄鋼協会の予測によると、2020年の世界鉄鋼生産量は18億8600万トン、うち中国粗鋼生産量は、10億700万トンと初めて10億トンを上回り世界Share 53.3%という圧倒的な存在を示している。一方中国14億の民を支える食糧については、食肉では世界豚肉生産/消費の約半分を占めることは前回述べたが、穀物の生産/消費/輸入数量も2000年以降大きく拡大し、鉄鋼生産同様世界最大の地位を占めるようになってきた。

中国は1949年の建国以来一貫して「食糧自給」が国策であったが、穀物需要が拡大する中、近年大豆等の選択輸入拡大に転じ世界穀物市場に与えるインパクトが特に大きくなってきている。別表では1990年以降の30年間の穀物生産拡大と輸入/在庫等の歴史的推移を整理したが特徴は以下の通り。

- ① 世界の大豆を含む四大穀物の生産/消費量と海上貿易量の推移については昨年7月号で述べたが、生産数量は別表の通り1990年⇒2019/20年の30年間で見ると15.1億トン⇒27.1億トン(179%)と急激に拡大した。一方、中国の穀物生産量も同期間3.1億トン⇒5.5億トン(176%)と同様に拡大し世界Shareはほぼ20%程度を保ってきた。これは同年度の米国穀物生産量約5億トンを上回り、中国は史上初めて世界最大の穀物生産国となった。
- ② しかし、中国はこの間の人口増(11.4億⇒14.3億人)や食肉/油脂/配合飼料需要増大等による穀物消費増大が顕著であり、国内生産だけでは賄えず1996年以降の「食糧95%自給」政策の行き詰まりが明確になった。そして2013年末に主食用穀物(米/小麦)と飼料穀物(大豆)の位置付けを明確に変え、主食用穀物は「絶対的自給」、飼料穀物は「基本的自給」、油糧種子は不足分を輸入するという食糧安全保障政策の歴史的転換を行った。
- ③ その結果、大豆輸入は急拡大し2017年には94百万トンと世界海上貿易量の約6割を占めるまでに至った。この中国の新たな大豆需要創出によってBRAが大豆生産を急拡大しその需要を吸収、また同時に大豆生産の裏作であるコーン生産拡大に結合することによってBRAは米国と並ぶ穀物生産/輸出大国としての地位を不動のものとし、海上貿易量の拡大を後押ししている。
- ④ コーンについては、中国は従来輸出国であり最盛期2003年には1640万トンの実績があり日本もその有力な輸入国であったが、現在は年700万トンの純輸入国になっているのもこの政策転換と肉食＝配合飼料需要の増大の結果と言える。かくして中国は、2010年以降世界最大の穀物消費/輸入大国となっている。
- ⑤ あと注目すべきは、大豆を除く小麦/コーン/米の3品目の世界市場における中国の在庫量とそのShareが抜きん出ていることである。別表に示した通り2019/20においては、小麦145百万トン(50.9%)・コーン196百万トン(63.9%)・米118百万トン(68.2%)と突出しており、世界穀物在庫の半分以上は中国に存在しているという異様な構図がある。⑥ このことは何を意味するのか……？ 見方としては、食糧不足による社会的/政治的リスク避けるための「国家食糧戦略」という評価もあるがそれだけで国内年間生産分に匹敵するような「備蓄」を持つ必要があるのか？FAO(国連食糧農業機関)の指標によれば穀物の品目別「安全在庫基準」は、小麦＝25～26%、コーン＝15%、米＝14～15%、穀物全体で17～18%とされ、中国の在庫率90%前後はそれを大幅に上回っており大きな財政負担と倉庫不足等をもたしている。

※次回以降、中国のこの過剰備蓄の背景・食糧政策・生産基盤の脆弱性・肉食の今後・穀物輸入/海上物流拡大の可能性等について続けます。

＜中国の4大穀物生産/輸入/在庫の歴史的推移＞

単位：100万トン

	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2017	2019/20	2019/20
世界生産 a	594.4	533.5	580.4	615.3	646.5	734.9	762.3	765.5	
生産量 A	96.5	100.0	102.0	96.0	114.5	130.2	134.3	132.0	
輸入量 B	11.5	12.0	2.0	2.0	0.9	3.0	3.9	3.2	
在庫量 C	22.9	20.7	14.8	34.8	60.0	87.1	131.2	145.7	中国在庫Share 50.9%
世界生産 a	467.4	501.6	587.8	677.7	820.7	973.9	1078.1	1104.9	
生産量 A	86.0	108.0	105.0	130.0	168.0	225.0	259.1	254.0	
輸入量 B	▲5.0	2.5	▲4.0	▲6.0	1.0	3.0	3.5	7.0	
在庫量 C	18.9	28.0	34.6	26.3	60.1	114.4	222.5	195.8	306.3 63.9%
世界生産 a	347.9	359.5	400.6	406.8	452.4	469.3	494.9	494.2	
生産量 A	129.5	126.0	136.5	127.4	139.3	145.5	148.9	146.0	
輸入量 B	0.4	1.0	▲3.2	9.6	0.3	4.7	5.5	3.1	
在庫量 C	26.2	17.9	22.0	27.2	43.1	47.5	109.0	117.8	172.7 68.2%
世界生産 a	105.2	124.8	167.3	221.7	257.8	320.1	341.6	341.4	
生産量 A	N/A	N/A	15.4	17.0	14.4	11.5	15.3	17.1	
輸入量 B	N/A	N/A	7.8	27.5	57.0	80.5	94.1	85.0	
在庫量 C	N/A	N/A	2.4	4.1	16.6	16.5	23.1	19.0	98.8 19.2%
世界生産計	1514.9	1519.4	1736.1	1921.5	2177.4	2498.2	2676.0	2706.0	
中国生産計	312.0	334.0	358.9	370.4	436.2	512.2	557.6	549.1	
中国比率%	20.6	21.9	20.7	19.3	20.0	20.5	20.8	20.3	
中国在庫計	68.0	66.6	73.8	92.4	179.8	265.5	485.8	478.3	864.3 55.3%

出所：USDA [World Agricultural Supply & Demand Estimate]

▲印は輸出を表す